



NÚMERO

1

# スペインと 日本を つなぐ人びと

インタビュー・文=中村美和(プロフィールはp.44)

España

Japón



Haruo Shimohira

下平晴朗

日西観光協会会長

ミキトラベル勤務。マドリド在住

日西観光協会

www.travelinfospain.net

スペインの各分野で活躍する日本人にインタビューするシリーズ第一弾。  
今回は、日西観光協会会長の下平晴朗氏に、スペインと日本の観光の展望と、  
今求められるスペイン語関連の人材についてお話を伺った。

下平氏が会長を務める日西観光協会は、  
在スペインの日系ツアーオペレーターやスベ  
イン各都市の観光局を会員に持つ非営利  
団体で、1987年の創立以来、日本人観光  
客の誘致を目的として、スペインの観光情  
報の共有や日本人観光客の安全面のサポ  
ートなど、会員間の連携を行ってきた。

の米沢市を訪問し、同じく慶長使節団が訪  
問したメキシコのアカプルコ、キューバのハ  
バナ市、イタリアのチヴィタベッキア、そして  
スペインのコリア・デル・リオを結ぶ「支倉リー  
グ」の提案をした。支倉常長の歴史を軸に、  
交流や協力を活性化する狙いだ。

また、2018年は日本とスペインの国交樹  
立150周年にあたる。さらに両国間の交流  
が盛んになる見込みだ。

「スペインへの日本人観光客は年々増え  
ていて、およそ40万から50万人といわれて  
います。加えて、スペイン国内の周遊先や  
旅のスタイルも多様化しています。一方、ス  
ペインでの日本旅行のブームも6-7年前ほど  
から始まっています」長年スペインで観光に  
携わってきた下平氏は、近年のスペイン・日  
本の観光業界の状況について、このように  
語った。

このような状況から、日本でのスペイン語  
の重要性は非常に高まっている、と下平氏  
は語る。「日本の通訳ガイドのライセンスは  
緩和されましたが、それでもまだスペイン語で  
観光客をアテンドできる人材は日本で不足  
しています。スペインと中南米からの訪日観  
光客は約15万人。この数は年々増加して  
います。『日本国内でスペイン語で観光客  
のアテンドやサポートできる人材』が必要と  
されています」

「しかし、スペイン人観光客向けに紹介さ  
れている地域は、東京、京都、大阪などまだ  
限られています。日本には訪問する価値ある  
地方都市はまだあります。日西観光協  
会として、スペインのお客様に、より多くの訪  
問先を提案したいと考えています」と、訪日  
観光の課題にも取り組みにも意欲的だ。

また下平氏は、日本とスペイン間のワー  
キングホリデー制度を利用した観光インター  
シップの可能性についても語った。「日本と  
スペインの地方自治体間で手を組んでいた  
だけ、スペイン語ができる日本人、日本語が  
できるスペイン人にそれぞれの自治体のサポ  
ートで滞在してもらい、その良さを発信してもら  
う。今後、ワーキングホリデー制度もぜひ活用し  
ていきたい」と、日本とスペイン両国の地方  
の魅力発信に意欲的だ。

その活動のひとつが「支倉リーグ構想」だ。  
下平氏は2017年11月に、400年前の支  
倉常長遣欧使節団の末裔であるハボン姓  
の人々が住むセビリアのコリア・デル・リオの  
市長と日西支倉協会会長ファン・フランシス  
コ・ハボン氏と共に、支倉ゆかりの宮城県  
の仙台市、石巻市、大郷町、川崎町、山形県



支倉常長率いる慶長遣欧使節団の子孫ハボンさんたちと共に  
日本とスペイン、メキシコ、キューバの都市をつなぐ「支倉リーグ  
構想」に挑む



YouTube

インタビューの  
動画を配信中